

●わが市・町を紹介します

～ Introduction of Our Hometown ～

城島町

- 人口：13,946人（平成12年国勢調査）
- 世帯数：3,853世帯（同）
- 町域：17.58平方キロ

城島町は、明治22年と昭和30年の2回にわたる合併により現在の城島町になりました。筑後平野のほぼ中央に位置し、筑後川が町の北西部を流れ、北東部は久留米市に、南西部は大川市に南東部は三潴町・大木町に隣接しています。高低差はほとんどなく、町全体が平地であるため、米麦を中心とした農業を主に栄えてきました。

産業では、「城島の酒」としてその名を広く知られ、筑後川の水運を利用して県内だけではなく九州各地に多く出荷されてきました。酒と並んで、城島瓦や和傘の産地としても知られてきました。近年は産業の形態も変化し、平成の時代を迎えてはパナソニックやホクトなど優秀な企業を誘致し転換期を迎えています。

第三次総合計画では「ゆとりと潤い・温もりと活力に満ちた・じょうじま」の実現に向けた町づくりを進めています。特に、平成10年にオープンした総合文化センター（文化ホールと図書館など）は、住民が参加する文化活動の拠点となっています。町民図書館の年間貸し出し冊数は、人口1人あたり11.3冊となり県内でも上位にランクするほどになっています。また、親子の心のきずなを育むため、赤ちゃんに絵本をプレゼントし、読み聞かせる機会を提供するブックスタート事業を始めました。文化ホールでは、一流の文化・芸能の鑑賞だけにとどまらず、住民の文化活動の育成や文化発表の場としても広く利用されています。このように町民の生涯学習の拠点施設として役割を果たしています。



600人収容の文化ホールや図書館、研修施設を併設した城島町総合文化センター

北野町

- 人口：17,404人（平成12年国勢調査）
- 世帯数：4,855世帯（同）
- 町域：20.49平方キロ

現在の北野町周辺（筑後国河北荘）はもともと京都・北野天満宮の神領でした。その地に天喜2年（1054年）、京都より菅原道真の分霊が祀られ、北野天満宮が創建されて以来、「北野」は北野天満宮の門前町として発展してきました。また北野天満宮境内には、歴史を物語る数々の宝物が伝えられています。菅原道真公の生涯、菅公の神霊の活躍、社寺の創建・霊験の3巻からなる「北野天神縁起」や、県指定文化財の「銅製鑿口」などが保管されています。

明治22年の市町村制施行により北野村（明治34年町制施行）、弓削村、大城村、金島村が発足しました。また、明治29年の御井・御原・山本の三郡合併による「三井郡」発足の際は、大正12年の郡制廃止までの間、郡役所が北野村（町）に置かれ、「北野」は郡の行政の中心地としても発展してきました。昭和30年3月、1町3村が合併し、現在の「北野町」となり、今日に至っています。

肥沃な土壌を生み出す筑後川の恩恵を受け、北野町では米、麦、大豆はもちろん、野菜づくりが盛ん。レタス、ニラ、大葉、ミツバ、パセリなど100品目を超える「多品目生産型」の野菜産地として知られ、北野ブランドの野菜は、福岡市などの近郊都市をはじめ、関東・関西都市圏まで出荷されています。町では、より活発に農業ができる環境づくりに努め、農業後継者のグループの支援や用排水路や農道の整備などを行っています。

また、素材の味を生かした手づくりにこだわる「やましお漬」は、北野町の特産品として、日本全国のファンから愛されています。



北野町の特産品として全国のファンから愛されている「やましお漬」製造工場